

令和4年7月7日
東京都病害虫防除所

令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号

病害虫名： 果樹カメムシ類
(チャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ)

対象作物： ナシ、ブドウ 等

1 注意報の内容

- (1)対象地域 都内全域
(2)発生量 多

2 注意報発令の根拠

- (1)チャバネアオカメムシのフェロモントラップの誘殺数は、6月第3半旬までは、おおむね平年値と同等であったが、その後誘殺数が増加し、同月第5半旬では101頭、第6半旬では160頭が誘殺され、いずれも過去10年間において、令和元年に次いで2番目に多かった(図1)。
- (2)チャバネアオカメムシの予察灯の誘殺数は、6月第3半旬までは、おおむね平年値と同等であったが、その後誘殺数が増加し、同月第5半旬では過去10年間で最多の77頭、第6半旬では過去10年間で2番目に多い244頭が誘殺された(図2)。
- (3)クサギカメムシの予察灯の誘殺数は、6月第3半旬までは、おおむね平年値と同等であったが、その後誘殺数が増加し、同月第4半旬では23頭、第5半旬では38頭、第6半旬では97頭が誘殺され、いずれも過去最多となった(図3)。

3 防除対策

春に結実したサクラやクワなどの実が、今後、急激に減少するため、果樹カメムシ類が果樹園に飛来する危険性が高まる。

- (1)早期に袋がけを行う。果実が肥大して袋に接するまでは袋がけの効果が高い。
(2)多目的防災網(目合9mm、クロス入り)を展開できる園では、早く設置する。
(3)果樹園への飛来が認められたら、表1の防除薬剤を散布する。

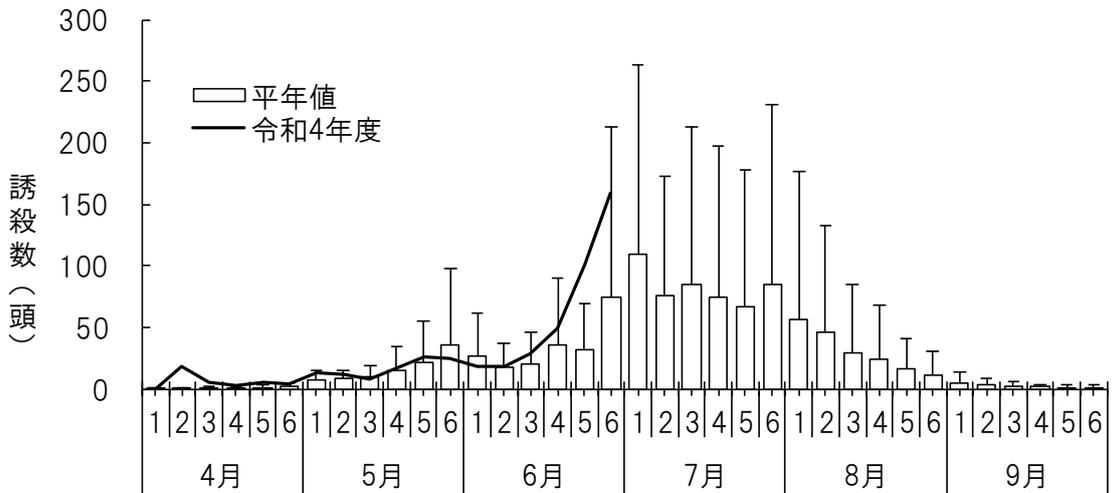


図1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数推移 (立川市内)

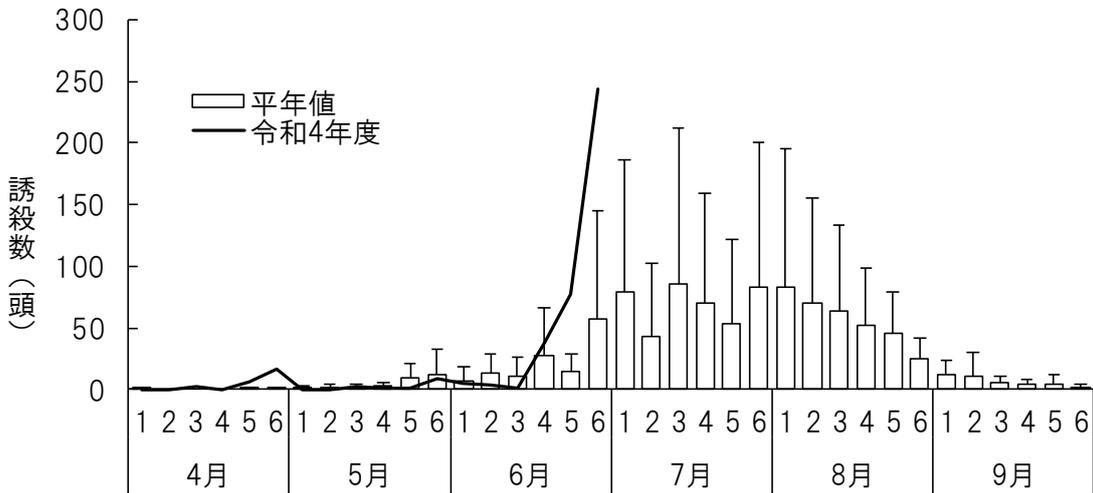


図2 予察灯によるチャバアオカメムシの誘殺数推移 (立川市内)

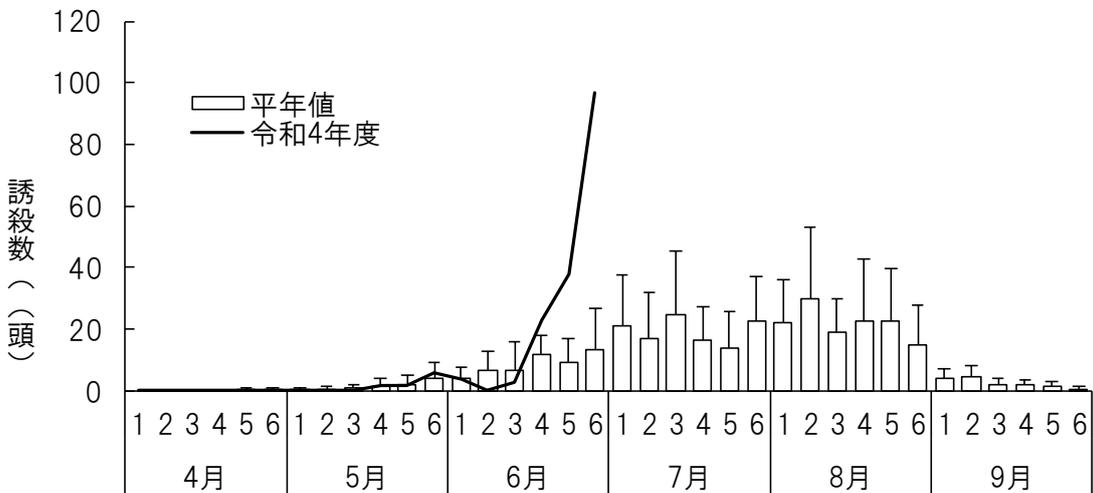


図3 予察灯によるクサギカメムシの誘殺数推移 (立川市内)

表1 主な防除薬剤

薬剤名	IRAC	成分名	使用時期 (日)	使用回数	ナシ	ブドウ
エルサン水和剤40	1B	PAP	60	2	○	
スミチオン水和剤40		MEP	14	6	○有袋	
			21	6	○無袋	
アーデント水和剤	3A	アクリナリン	7	3	○	
アグロスリン水和剤 イカズチWDG		シペルメトリン	1	3	○	
アディオン乳剤		ベルメトリン	1	2	○	
サイハロン水和剤		シハロトリン	7	3	○	
スカウトフロアブル		トラロメトリン	1	5	○	
テルスターフロアブル		ビフェントリン	1	2	○	
マブリック水和剤20		フルバリネート	30	2	○	
ロディー水和剤		フェンプロパトリン	1	2	○	
MR. ジョーカー水和剤		シラフルオフェン	14	2	○	
アドマイヤー顆粒水和剤		4A	イタクロプロリト [*]	3 ^{*1}	2	○
アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム		1	3	○	
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン		1	3	○	○
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		1	3	○	○
バリアード顆粒水和剤	チアクロプロリト [*]		1	3	○	
ベストガード水溶剤	ニテンピラム		14	3	○	
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト [*]		1	3	○	
テッパン液剤	28		シクレニリプロール	1	2	○
パーマチオン水和剤	1B 3A	MEP フェンハレレート	30	5	○	
キックオフ顆粒水和剤	4A 28	ジノテフラン クロラントラニリプロール	1	3	○	

*1 露地栽培においては発芽期から開花期を除く。

注1) 農薬を使用する際は、ラベルの記載事項を確認する。

注2) ピレスロイド剤は、ハダニ類の発生を助長することがあるので注意する。